

狙われない、侵入されにくい 防犯住宅をつくる!

「防犯住宅」とは、防犯対策を強化した安心して住める家のこと。

住まいの防犯についてきちんと知り、効果的な対策をとることで、誰もが侵入者から我が家を守ることができます。

侵入者はここを見ている! 狙われやすい家とは?

しっかりと防犯対策のためには、安全をおびやかす侵入者の手口を知ることが大切。まずは一戸建てと共同住宅で、それぞれ狙われやすいポイントを見ていきましょう。

一戸建て

侵入経路は、窓からが約6割、出入口からが約3割!

侵入者の多くは、表から死角となる窓を狙って侵入してきます。表出入口である玄関だけでなく、あらゆる出入口と窓の防犯を見直して、狙われにくい家にしていきましょう。

高い塀や植栽がある

塀や植栽は侵入を妨げる効果があるといがちですが、一度乗り越えると、逆に表からの目隠しとなり、侵入者が隠れて窓やドアを破壊することができます。

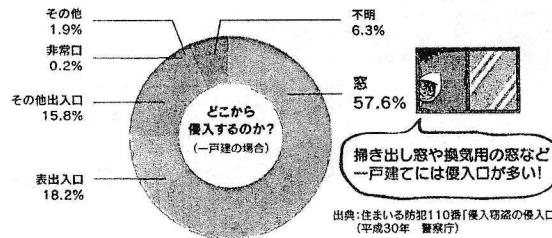


玄関の錠が1つしかないお宅も狙い目!



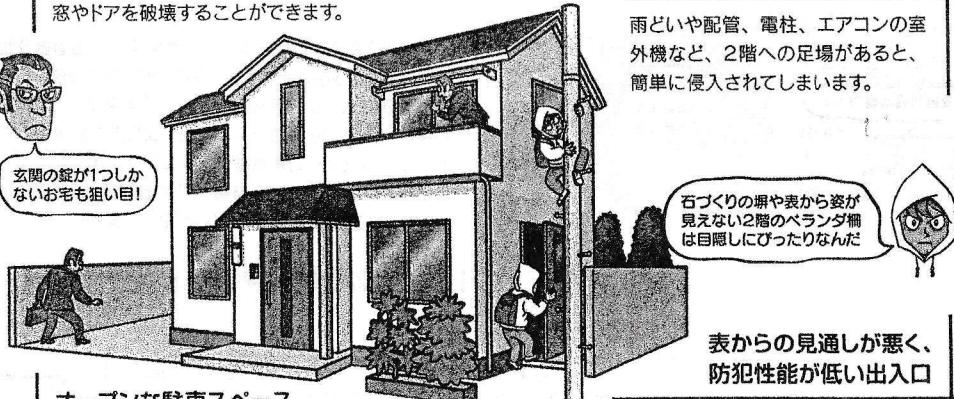
オープンな駐車スペース

車の出し入れのしやすさを優先させて開放的にしておくと、侵入者の入りやすさにもつながってしまうので要注意。



2階への足場がある

雨どいや配管、電柱、エアコンの室外機など、2階への足場があると、簡単に侵入されてしまいます。



表からの見通しが悪く、防犯性能が低い出入口

死角となりがちな勝手口、ベランダ、トイレや浴室の窓などは、玄関と比べて防犯対策があろそかになりがちなため、侵入口となるケースがあります。

侵入犯罪プロファイル

侵入者に狙われやすい環境とは?

防犯意識が低く、入りやすそうな家かどうか

侵入者は入りやすい家を見つけるために下見をして、防犯力メタの有無、開けやすい鍵であるか、惑破りしやすいかなどを確認します。

侵入経路・逃走経路が確保されている

幹線道路から1本入った裏道などにある住宅なら、人目につきにくく、さらに犯行後にすぐ幹線道路へ出て逃げやすいといえます。

監視性(人の目)はないか

近所づきあいが少ない新興住宅地、共働き世帯が多い地域は人の目が届きにくくなりがち。ゴミ出しのルールが守られていない地域も監視性が低いと見られます。

入りやすく、逃げやすい、人目につかない、がポイントです



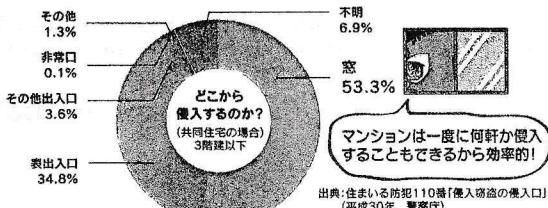
共同住宅

3階建て以下は窓から、4階建て以上は表出入口から侵入!

オートロック式のマンションなどは、無施錠でゴミ捨てるなど油断しがちですが、上層階であってもセキュリティを過信せず、きちんと対策をとることが必要です。

屋上に立ち入ることができる

屋上の出入口に扉がない、施錠設備や柵等がない場合、バルコニーへの侵入経路となってしまいます。上層階に住んでいても注意が必要です。



窓に対する防犯意識が低い

板ガラスや網入りガラスの窓、錠もロック付きクレセントではない、補助錠の設備がないなどの場合、簡単に窓から侵入されてしまいます。

単身者用のマンション

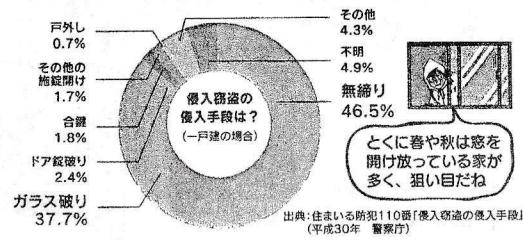
独居を目的としたワンルームばかりのマンションは、留守がちな部屋の集合体といえるため、目をつけられる可能性が高いといえます。

侵入者を寄せつけない！効果的な防犯対策とは？

侵入の最も多い手口は、約5割が無錠による侵入で、その次に多いのが約4割を占めるガラス破りです。つまり、きちんと戸締りをして窓ガラスの防犯対策をすれば、被害を防げる可能性がぐんと高まります。では、防犯を強化するポイントを見ていきましょう。

確実に施錠することが防犯の第一歩！

トイレや浴室、2階や3階の窓など、一見入りにくそうなところでも、侵入者は施錠されていない無錠の部分を狙って侵入してきます。高層階に住んでいても、屋上から部屋に下りてくるという手口もあるので、油断は禁物です。たとえちょっとした外出であっても必ず鍵をかけ、補助錠で二重ロックにするとより安心です。また、鍵を郵便受けや植木鉢などに隠すのはやめましょう。



窓ガラスの防犯性能を高めてガラス破りを寄せつけない！

一戸建て、共同住宅ともに、工具などを使用してガラスを割るなどして窓から侵入する「ガラス破り」が2番目に多くなっています。



一方、侵入窃盗犯の約半数が、侵入に手間取り5分以上かかる場合は侵入をあきらめる傾向にあると言われています。「侵入に時間がかかる家だな」と侵入者にわからせるようにして、侵入をあきらめさせる、侵入を許さない工夫が必要です。

窓ガラスの防犯性能を強化

1 補助錠をプラスして防犯性能を高める

一般的な窓に付いている「クレセント錠」は密閉度を高めるためのもので、防犯性が高いとはいません。ロックの付いたクレセントに変更したり、窓枠に補助錠などを取り付けましょう。

2 窓ガラスに防犯フィルムを貼る

ガラス破りに備えて、窓ガラスの全面に防犯フィルムを貼るようにしましょう。注意したいのは、防犯性能が高いことを示す「CPマーク」(CPマークの説明については本誌P12-13を参照)認定品を選ぶこと。飛散防止用フィルムなどの薄いフィルムではありません。なお、防犯フィルムは、部分貼りでは効果がなく、ガラス全面にしっかりと貼られている必要があります。この作業は、専門の業者に依頼し、貼ってもらいましょう。



3 防犯ガラスに交換する

破壊するまでに時間がかかり、打撃を加えても貫通しにくい防犯ガラスに交換することで、防犯性を高めることができます。交換作業は、専門の業者に依頼して行ってもらいましょう。

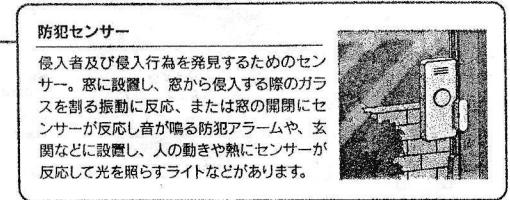
4 面格子やシャッター、雨戸なども有効

面格子やシャッターも、簡単に外せるタイプのものは、すぐに窓を破られてしまいます。簡単に取り外せない「CPマーク」認定品の面格子やシャッターなどを取り付けることで、防犯効果が高まります。



5 留守がちで心配な場合は防犯センサーを設置

侵入者対策に役立つ防犯センサーの設置も有効です。ドアなどの見えやすいところに警告ステッカーが貼られていることで抑止効果にもつながります。窓・扉開閉検知センサーやガラス破り検知センサーなど、場所や目的に応じて設置しましょう。



玄関からの侵入対策も、今一度見直しを！

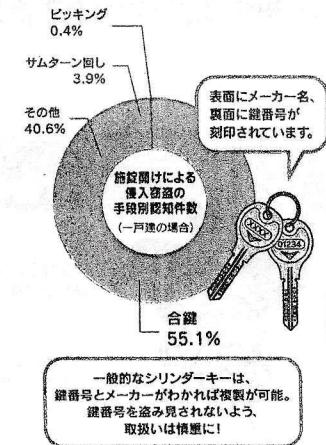
鍵をかけたにもかかわらず侵入された施錠開けの手口では、1番目が合鍵、3番目に多いのが「サムターン回し」による被害です。かつて被害が多かった、特殊工具で鍵を開ける手口の「ピッキング」は、対策が浸透してきたこともあり、件数は減っています。



サムターン回しに対応した鍵に変更するのが一番ですが、賃貸などで難しい場合にはサムターンを保護するカバーを取り付けるのが有効です。



表玄関はツーロック、補助錠などで対策していても、勝手口は無防備になってしまいませんか？ 勝手口は表通りからは死角になることが多いので、表玄関同様に一度見直しを！



賃貸住宅への入居の際は、錠の交換について家主に確認・相談してみましょう。

「音」「光」「目」を武器にして防犯住宅を鉄壁に!

侵入者は、侵入に時間がかかることに加えて、存在を気づかれ、見張られ、監視されることを嫌います。そして、下見の段階で「この家に入ると捕まりそうだな」と思われ、侵入をあきらめさせるのが一番の防犯対策になります。侵入者が嫌がる「音」「光」「目」のポイント別に対策を紹介します。

音 音で威嚇し、侵入者をあきらめさせる!

防犯砂利を敷く

踏むと76.5dB以上(掃除機くらい)の音を出すように作られた大粒の石を防犯砂利といいます。侵入者の出入口となる玄関や窓の周り、死角になりやすく、あまり人が通らない勝手口側の道路、隣家との境などに敷くと効果的です。



光 侵入しにくい環境をつくる!

照明を上手に使って人の気配を演出

暗くなると照明がつくセンサー付きの明かりや、タイマーで自動的に照明やテレビを点灯・消灯させることができる器具などを使って、留守宅であることを外から悟られない工夫を。



玄関や勝手口に防犯ライトを設置

人が通るとセンサーが反応して照明を点灯させる防犯ライトも、防犯意識の高さのアピールに有効です。電池式やソーラー充電式のものを選択すれば、場所を問わず使用できます。



侵入犯罪プロファイル

危険度チェック!! あなたの家は狙われやすい?

下記の項目に「はい」か「いいえ」でお答えください。

- | | |
|----------------------------------|----------|
| 1. 家が線路沿いなど騒音が大きい場所に建っている | はい · いいえ |
| 2. 観光名所や公園など人の出入りが多い場所に住んでいる | はい · いいえ |
| 3. マンションの場合、1階か最上階に住んでいる | はい · いいえ |
| 4. 屋間は留守にしがち | はい · いいえ |
| 5. 近所づきあいをしていない | はい · いいえ |
| 6. ベランダに死角がある | はい · いいえ |
| 7. 入口に防犯カメラやカメラ付きのインターホンを設置していない | はい · いいえ |
| 8. 家の周囲にセンサーライト、防犯砂利を設置していない | はい · いいえ |

「はい」の数が多いほど、現在の危険度は高いと言えます。「いいえ」が多かった人も油断せず、防犯住宅をさらに強固なものにしていくために、必要な「音」「光」「目」の対策をしていきましょう。



目 地域全体で侵入者を見張る!

敷地内の見通しの良い柵やフェンス

プライバシーを重視し過ぎた家は、侵入者にとっても隠れるスペースが多い家となってしまいます。庭木は枝ぶりが人の視線の高さより高い位置かどうか、生け垣は連続して死角を作っていないかなど、道路から敷地内が見通せるようにしましょう。



防犯設備機器(防犯カメラ、テレビ付きインターホン等)の有効活用

玄関などの出入口に防犯カメラを設置することで、侵入者に対する抑止力が高まります。また、異常があった際にはアラームでお知らせしてくれるネットワークカメラや、外出中でも来客対応ができる録画機能付きのインターホンなども有効です。

「地域の目」で街を守る!

侵入者が犯行をあきらめた理由で多いのは、実は「近所の人間に声をかけられたり、ジロジロ見られた」です。侵入者が下見に来ている可能性があるため、普段からあいさつ、声かけを励行するなど、ご近所づきあいを大事にしておくことが、地域全体の防犯につながります。

